

偏えに川崎市政の健全化のために 阿部市長の誠意のある対応を求めて

去る三月十一日、未曾有の巨大震災と原発事故に見舞われて、私は七月下旬に被災地を見舞い、かつて経験したことのない衝撃を受け、人生観も価値観も変わった思いです。同時に、被災地の街々に対比して川崎の街が異様なのに気付きました。日本国民は総力を挙げて絆の心をもって真剣に支え合って復旧、復興に言語に尽し得ない苦渋の努力している最中に、阿部市長の不遜で不真面目な態度には市民として政界OBとして激しい怒りを禁じ得ないのです。

川崎市政と阿部孝夫市長の粗探しなどするつもりは毛頭ないが、川崎市政の健全な伸展を願えばこそ、このほど、恩讐や対立を超えて、微力を尽くして心から協力したいと齋藤力良副市長を通じて申し入れをしましたが、阿部市長には面談さえも拒否されてしまったのです。これほどまでの屈辱はありません。なぜこれ程まで虚仮にされるのか全く理解できないのです。阿部市長に対する期待が完璧に裏切られたのです。彼の無責任と怠慢と鈍感に、呆れ果てているのです。評判通り、この市長にしてこのゴマすり副市長との強い印象を受けました。

思えばちょうど十年前、川崎市政の改革とその躍進を期待し、前神奈川県知事の松沢成文氏や前横浜市長の中田宏氏らと共に高齡多選の現職市長に対抗して阿部孝夫氏を擁立し、阿部市政の誕生に誠心誠意全力を尽くしました。このことは、石原信雄元官房副長官も岡本徳弥阿部市長後援会長も熟知しています。

しかし、阿部市長は市長就任以降、今日に至るまでの十年間、市政に関す

る私の要請や依頼に対して唯の一つも、たった一回も誠意をもって応えていないのです。阿部市長には誠意や責任感や緊張感の片鱗さえ感じられないのです。市民の一人として極めて残念です。私の七十年余の人生の中で、阿部市長ほどの「稀代の嘘つき」に出会ったことはありません。市長という公職者で重責の阿部市長はなぜ、あれ程に嘘をつく必要があるのか理解できないのです。今にして気になるのはメディアの報道の通り、高い地位にある公人の阿部市長の変態性さえ見せる異常な性格です。不誠実にはほとんど閉口しています。

ですから、二年前の三期目の選挙では、現職の市長でありながら信頼を失って、無様な言動を繰り返して結局は阿部市長を推薦した政党は皆無だったのです。

指定都市制度の致命的欠陥とともに、川崎市民としては極めて残念で、恥かしながら、先の生田緑地公園不作為事件にしても、今回の稀有な腐食・不浄の事例にしても、今日の日本の大都市自治の機能不全を見事に実証しています。人口九百万人を超える大県・神奈川にあって、しかも三つの指定都市をかかえ、状況は極めて深刻と考えております。

今、東北と紀伊半島の凄惨な被災者の苦難に思いをめぐらして、誠に不本意ながら、面談さえ拒否されたからには阿部孝夫市長の人格と誠意と本心を質します。

よって下記の公開質問をします。

公開質問

なぜか阿部市長は平成 18 年 1 月 16 日付けの私の要請文(市長室で環境局長、緑政部長が同席の上市長に直接手渡した別紙)に未だ答えないのです。改めてここに別紙の要請文について公開質問をしますので明確にお答え下さい。

なお、この要請文の内容につきましては、平成 18 年 4 月に住民監査請求提出の直前にも多摩区役所の生田出所にて市長に直接申し入れをしたことも付記しておきます。阿部市長の誠意を問います。

この度の、生田駅前の横断歩道橋の腐食や五反田川その他の管理放棄とも思える行政責任を問います。その原因と経過を明確に教えてください。

私が指摘している政令指定都市制度の致命的な欠陥についての現職市長の見解を問います。なお、指定都市制度の歴史的経過も説明して下さい。特に阿部市長は旧自治省 OB で地方自治については専門家です。市民に分り易く詳細にご説明と解説を願います。

以上 3 点について、公開の上、質問しますので、どうぞ公開でのご返答をお願いします。返答次第では再度質問いたします。

2011 年 11 月

都市アナリスト

永井英慈

要請文

私たち川崎市民にとって、かけがえない貴重で広大な生田緑の荒廃・荒涼・不潔実態は正に耐えがたく、市民として、納税者として、利用者として、また都市アナリストとして、ことに悲しくも恥しい限りで、怒りさえ抑えられないほどの惨状でございます。どうぞ、川崎市、川崎市議会、並びに各党会派、川崎市監査委員会、それに報道各社に於かれましては、早急に対応策を講じていただきますよう、ここにその恐るべき実態情報をご提供申し上げます。

一、先ず、生田緑地のこの荒廃の現状を保存し、状況証拠として、当分の間、ホームページやメディアを通じて情報を公開して、各方面の関心を高めて、現場確認をしてほしいものをご要請申し上げます。

二、次に、この惨状を招いた原因と経過をできる限り、正確に市民に説明いただききたいと存じます。同時に、責任の所在を明らかにしていただききたいと存じます。

三、川崎市は昭和四十七年四月一日に政令指定市に移行しました。それ以降の川崎市政と体質について分析・検証をお願いします。四、私はかつてより、政令指定市制度に大きな疑問を抱いてきました。半世紀に及ぶその政令指定市制度の検証をそれぞれのお立場で実施していただきたくご要望申し上げます。

平成十八年一月十六日

永井英慈

(都市アナリスト)

川崎市多摩区在住

川崎市長

阿部孝夫 殿